

会計 見本一類題 Disc4

第2問 仕訳問題

4. 当社(決算日12月31日)は、次の条件で当年1月1日にリース物件(RPA装置)の引渡しを受け、本日、決算日を迎えた。なお、この取引は、所有権移転外ファイナンス・リース取引と判定されている。
- (1) 借手の見積現金購入価格 ¥550,000
 - (2) 年間のリース料 ¥120,000(支払いは各期末に現金で行う。)
 - (3) リース物件の経済的耐用年数 5年
 - (4) 借手の減価償却方法 定額法
 - (5) 利息相当額の配分方法 定額法
6. 当社は過日、IT補助金¥1,000,000の交付を受け、この国庫補助金に適合するソフトウェアを¥1,500,000で購入していたが、本日株主総会を開催し、当該建物に対して、積立金方式により圧縮記帳を行った。

第3問 当社(決算日3月31日)は、保有目的の異なる有価証券を所有している。次の有価証券に対して、決算整理仕訳を示しなさい。ただし、有価証券に関して、次の勘定科目を使用すること。円未満に端数が生じる場合は四捨五入すること。なお、その他有価証券以外は税効果会計を適用しない。

売買目的有価証券 満期保有目的債権 子会社株式 その他有価証券

1. 当社は、次の銘柄の株式を売買目的有価証券で所有している。

銘柄	保有株数	取得単位原価	期末単位時価
A社	1,500株	¥3,000	¥3,200
B社	1,300株	¥5,000	¥4,600

2. 当社は、当期8月1日に、札幌会社が発行した額面¥5,000,000、償還期限5年、契約利率年2%(利払日は1月末と7月末の年2回)の社債を¥100につき¥96.4で取得し、満期まで保有する意図をもって所有している。また、取得価格と債券金額(額面)との差額は、すべての金利の調整分である。当該社債に関して必要な整理を行うと同時に、未処理である契約利息の計上を行う。なお、当該社債の評価は、償却原価法(定額法)による。

3. 当社は、次の銘柄の株式を支配目的で所有している。これらの銘柄の会社は、いずれも子会社である。

銘柄	保有株数	取得単位原価	期末単位時価
C社	20,000株	¥5,000	¥4,200
D社	15,000株	¥6,000	¥8,000

4. 当社は、次の銘柄の株式を所有している。これらの銘柄の株式は、その他有価証券の区分に分類されている。なお、これらの銘柄の帳簿価格と税法上の資産計上額との差額は一時差異に該当し、税効果会計を適用する。実効税率は38%である。

銘柄	保有株数	取得単位原価	期末単位時価
E社	3,000株	¥5,000	¥6,000
F社	2,400株	¥1,800	¥2,500

解答

第2問

	借方科目	金額	借方科目	金額
4.	リース債務	110,000	現金 リース資産減価償却累計額	120,000 110,000
	支払利息	10,000		
	減価償却費	110,000		
6.	繰越利益剰余金	1,000,000	無形固定資産圧縮積立金	1,000,000

第3問

	借方科目	金額	借方科目	金額
1.	有価証券運用損益	220,000	売買目的有価証券	220,000
2.	満期保有目的債権	24,000	有価証券利息	40,667
	未収有価証券利息	16,667		
3.	仕訳なし			
4.	その他有価証券	4,650,000	その他有価証券評価差額金	2,901,600
			繰延税金負債	1,778,400

特殊仕訳帳

次の取引を特殊仕訳帳としての仕入帳に記入して、月末に締め切りなさい。また、示された勘定口座に転記（日付けと金額のみでよい）しなさい。なお、当店ではこのほかに、現金出納帳、当座預金出納帳および売上帳を特殊仕訳帳として用いている。

1月20日 長州商店から商品¥600,000を仕入れ、代金のうち¥200,000は小切手を振り出して支払い、残額は掛けとした。なお、引取運賃¥30,000は、現金で支払った。

28日 長州商店から仕入れた上記商品のうち一部に品違いがあったので、¥60,000分の商品を返品し、戻し高は買掛金から差し引くことにした。

29日 土佐商店に対する前期分の買掛金のうち¥380,000を現金で支払った。

平成27年	勘定科目	摘要	元丁	買掛金	諸口
		前ページから		1,300,000	600,000

1/31	650,000	1/1	前期繰越	750,000
------	---------	-----	------	---------

1/1	前月繰越	450,000
-----	------	---------

1/1	前月繰越	45,000
-----	------	--------

特殊仕訳帳 (解答)

仕入帳

3

平成27年	勘定科目	摘要	元丁	買掛金	諸口
		前ページから		1,300,000	600,000
1	20	当座預金	長州商店 ✓		200,000
	"	買掛金	長州商店 仕2	400,000	
	"	現金	引取運賃 ✓		30,000
	28	買掛金	長州商店 仕2	60,000	
				1,700,000	830,000
	31		掛仕入高 11		1,700,000
	"		総仕入高 20		2,530,000
	"		仕入返品・値引高 11/20		60,000
			純仕入高		2,470,000

総勘定元帳

買掛金

11

1/31	650,000	1/1	前期繰越	750,000
"	60,000	31		1,700,000

仕入

20

1/31	2,530,000	1/31		60,000
------	-----------	------	--	--------

仕入先(買掛金)元帳

土佐商店

1

1/29	380,000	1/1	前月繰越	450,000
------	---------	-----	------	---------

長州商店

2

1/28	60,000	1/1	前月繰越	45,000
		20		400,000

伝票・仕訳集計表（問題）

第3問 次の取引を略式伝票(5伝票制)に記入して、仕訳集計表を作成しなさい。総勘定元帳を示していないので、元丁欄の記入は必要ない。なお、仕入と売上は、いったん全額を掛け取引とみなして起票している。

2月10日 奥羽商店に商品¥800,000を売り渡し、さきに受け取っていた内金¥200,000を差し引き、¥350,000は他人振り出しの小切手で受け取り、ただちに当座預金に預け入れた。残額は同店振り出しの約束手形で受け取った。

// 長岡商店に対する売掛金¥330,000を現金で回収した。

// 庄内商店から商品¥350,000を仕入れ、代金は掛けとした。

// 先日、伊達商店から掛けで仕入れていた商品のうち、¥30,000分の商品が品違いであったので返品し代金は買掛金から差し引くことにした。

※売掛金には商店名も記入する。

売上傳票	
商店名	金額
()	()

入金伝票	
科目	金額
()	()

仕入伝票	
商店名	金額
()	()

仕入伝票	
商店名	金額
()	()

振替伝票(借方)		振替伝票(貸方)	
科目	金額	科目	金額
()	()	()	()

振替伝票(借方)		振替伝票(貸方)	
科目	金額	科目	金額
()	()	()	()

振替伝票(借方)		振替伝票(貸方)	
科目	金額	科目	金額
()	()	()	()

仕 訳 集 計 表
平成27年2月10日

借方	元丁	勘定科目	元丁	貸方
		現金		
		当座預金		
		()		
		売掛金		
		買掛金		
		前受金		
		売上		
		仕入		

伝票・仕訳集計表（解答）

※売掛金には商店名も記入する。

売上傳票	
商店名	金額
(奥羽商店)	800,000

入金伝票	
科目	金額
(売掛金/長岡商店)	330,000

仕入伝票	
商店名	金額
(庄内商店)	350,000

仕入伝票	
商店名	金額
(伊達商店)	30,000

振替伝票(借方)		振替伝票(貸方)	
科目	金額	科目	金額
(前受金)	200,000	(売掛金/奥羽商店)	200,000

振替伝票(借方)		振替伝票(貸方)	
科目	金額	科目	金額
(当座預金)	350,000	(売掛金/奥羽商店)	350,000

振替伝票(借方)		振替伝票(貸方)	
科目	金額	科目	金額
(受取手形)	250,000	(売掛金/奥羽商店)	250,000

仕訳集計表
平成27年2月10日

借方	元丁	勘定科目	元丁	貸方
330,000		現金		
350,000		当座預金		
250,000		(受取手形)		
800,000		売掛金		1,130,000
30,000		買掛金		350,000
200,000		前受金		
		売上		800,000
350,000		仕入		30,000
2,310,000				2,310,000

本支店仕訳（問題）

第4問 (株)武徹商店は、大阪に本店を置き、高知と山口に支店を設けている。よって、次の取引について、①本店集中計算制度と②支店分散計算制度を採用する場合とに分けて、本店及び支店の仕訳を示しなさい。解答にあたり、次の勘定科目を使用すること。

本店 高知支店 山口支店 売上 仕入

<取引>

高知支店は、商品¥555,000を山口支店から仕入れ、その旨を本店に連絡した。

①本店集中計算制度を採用する場合

	借方科目	金額	貸方科目	金額
本店				
高知支店				
山口支店				

②支店分散計算制度を採用する場合

	借方科目	金額	貸方科目	金額
高知支店				
山口支店				

本動画では、山口支店が高知支店から商品を仕入れていると解説していますが、問題では、高知支店が山口支店から商品を仕入れているという仕訳になります。本動画で解説しております仕訳を、借方科目と貸方科目を反対に仕訳することで、正しい仕訳を作成する事が出来ます。

本支店仕訳（解答）

①本店集中計算制度を採用する場合

	借方科目	金額	貸方科目	金額
本店	高知支店	555,000	山口支店	555,000
高知支店	仕入	555,000	本店	555,000
山口支店	本店	555,000	仕入	555,000

②支店分散計算制度を採用する場合

	借方科目	金額	貸方科目	金額
高知支店	仕入	555,000	山口支店	555,000
山口支店	高知支店	555,000	仕入	555,000